

●先端ノズルの外し方



吸引式用ハンドピース



先端部



先端部 説明用

先端部の左画像での赤部分を押さえながら
左画像での黄部分をつかんで反時計回しで
先端ノズルを外すことができます。

**左画像での赤部分以外を
押さえないようお願いします。
※下記注意参照**

手で回せるようになっておりますが
研磨材の混入や経年等で回りづらくなっている場合が
ありますので、その際は左画像での黄部分を
ペンチ等でつかみながら回すようお願いします。
※それより先端側のグレーの超鋼部分と

金具部分（左画像での黄部分）は瞬間接着剤
で固定しておりますが、力を加えた際に外れる
可能性がありますので、グレーの超鋼部分から
力を加えないようお願いします。



先端部 先端ノズル分離後

★注意



先端ノズルを外した状態のハンドピース 説明用

ハンドピースの上画像の赤部分と青部分も回して外せるようになってはおりますが
"こちらは絶対に回さないようお願いします。"

(先端ノズルを外す際に、上画像の青部分を押さえた場合)

先端ノズルが回りづらい状態のときに上画像の赤部分が回ることがあります)

こちらを回してしまいますと、内部でエーチューブが

接着剤で固定されている状態のまま回る事になり、ねじれてしまいます。



エーチューブがねじれた状態

「ハンドピースからエアーが出ない」
という不具合はこういった場合で起きやすいです。

上記のようにエーチューブがねじれた状態になってしまった場合、
取り扱いの過失による故障として保証対象外の有償修理となります。
ご留意の程お願いします。

●手入れ



先端ノズルを外した状態のハンドピース

削れて穴が拡大した
先端ノズル削れて穴が拡大した
ハンドピース内部

先端ノズルを外すと、左画像のようになっており
 ・中心の穴がエアーの出口
 ・周囲の3ヶ所の穴が研磨材の出口
 となります。

研磨材の出が悪いと感じた際には
 周囲の3ヶ所の穴を針金等のものでつつき入れて
 (紙を留めるクリップを曲げたようなものでも可)
 湿気で固まって詰まっているようなもの等を解消し
 ハンドピースを下に向けて、ハンドピース内に
 溜まっている研磨材を取り出す事で
 他不具合でなければ改善される場合があります。
ハンドピース自体を分離しないようお願いします。

また、先端ノズルやハンドピース内部(周囲)の穴は
 使用を続けて行くにつれ削れて拡大していきます。
 長期的な使用で穴が大きくなり過ぎると
 研磨材の噴射力が弱くなる原因となります。

先端ノズルは単体で販売しておりますが
 "先端ノズルを外した状態の"ハンドピースは
 販売しておりませんのでご了承ください。

●先端ノズル取扱の注意



左:通常の先端ノズル

右:先端部分が埋まった状態の先端ノズル

通常、先端ノズルは金具部分から7~10mmほど
 グレーの超鋼部分が出ている状態となっております。
 こちらは瞬間接着剤で固定をしていますが
 先端側から過度な力が加わる等で
 内部に埋まった状態になり、研磨材を噴射するのが
 困難となってしまう場合があります。
 ※通常は左画像の左側のようにすり鉢状に
 なっている状態で研磨材を送りますが
 画像の右側のようになってしまふと
 研磨材が超鋼部分の穴に入りにくい形になります。

**「ハンドピースからエアーは出るし
 逆噴射もできるが研磨材の出が悪い」**
 という不具合の場合この可能性が高いです。

**先端側から過度な力が加わる原因は
 ハンドピースを下に向けて落とす**
 という状況が多いと思いますので
 ご留意の程お願いします。

●仕様について

「吸引式」について、研磨材タンクをエアーの通り道に接続させエアーの流れる量で
 研磨材タンクに負圧(引っ張る力)をかけて噴射するという仕組みとなっています。
 弊社で販売している吸引式用ハンドピースは無色透明のチューブと色つきのチューブの
 2本繋がっているものとなり、色つきチューブの方からはエアーを入れて
 無色透明のチューブからタンク内の研磨材を吸引して噴射しております。

弊社での用途分けとして色つきのチューブを

- ・青：アルミニ用、黄：ガラスピーブ用、緑：循環用

とさせて頂いておりますが、色が違うのみで仕様・性能としては同等のものとなります。
 ※検査時に既定の性能以上であることを確認しておりますが
 その上で、ある程度の個体差は生じます。